

チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第11回「3月19～20日の連邦公開市場委員会 (FOMC) について」

3月20日（米国時間）に米国の金融政策を決定する「連邦公開市場委員会（FOMC）」が開催されました。今週はFOMCの内容と市場動向についてお伝えします。

～FOMC参加理事の経済・政策金利予測～

先週のウィークリーレターでお伝えしましたが、年間8回開催されるFOMCのうち、3月、6月、9月、12月のFOMCでは参加理事の「経済・政策金利予測」が発表されます。今回発表された「経済・政策金利予測」を見てみましょう。表1をご覧ください。

表1は参加理事が予測した各年末の数値を掲載しています。カッコ内は前回12月の数値です。

まず、政策金利ですが、24年末の予想は昨年12月の予想と同じ4.6%（中央値）でした。FOMCの開催前、金融市場では、この数値が引き上げられ、今年の利下げ回数が減るのではないかとの思惑から長期金利が上昇、株価は若干調整となっていました。利下げ回数が変わらないことを好感しNYダウ、S&P500、NASDAQの各指数は史上最高値を更新しました。ただ、来年以降の政策金利は引き上げられ25年が3.9%、26年が3.1%となりました。25年の引き下げ回数が1回減少したことを示しています。

このように政策金利の予測が高止まる要因は、「米国経済が堅調な成長を継続しており、物価上昇率の低下スピードが緩やかになっている。」と参加理事の方々が考えているからです。

この表の2行目以降は経済成長率、失業率、物価上昇率の予測ですが、経済成長率は今年以降26年まで1%台から2%台へ上方修正されました。失業率については4%程度と若干下方修正されており、FRBの政策目標の一つ（雇用の最大化）は達成可能であることを示唆しています。インフレ率に当たるコアPCE上昇率は今年だけ0.2%上方修正されており、引き続きインフレへの警戒感があります。

今回のFOMCでは、FRBはこれまで行ってきた金融政策に対し自信が深まっていると思います。政策金利引き下げは、金利先物市場での予想通り、6月から開始されると考えています。

～今後の市場動向について～

先にも申し上げましたが、今回のFOMCの結果が想定範囲内ということで市場は安堵し、NYダウをはじめとする株式市場は史上最高値を更新しました。今後の焦点としましては、地政学的なリスクによってインフレ状況が再び過熱するのかどうか、また高止まりしている政策金利の悪影響が出るのかどうかです。利上げ後2年を経過する現時点で米国経済が緩やかな拡大を続けていることは市場参加者の想定を超える動きとなっています。今後、米国は景気後退もなく次の景気拡大期に移行できるのかに注目しています。株式市場、債券市場、為替市場いずれも米国の金融政策に大きく左右されるため、今後もFRBの発信やFOMCでの議事内容などを注意深く見ていきたいと考えています。

因みに次回以降のFOMCの開催予定日は、4月30日～5月1日、6月11～12日、7月30～31日、9月17～18日、11月6～7日、12月17～18日です。経済・政策金利予測が発表されるのは6月、9月、12月のFOMCです。

表1

FRBメンバーの経済・政策金利予測【2024年3月】

カッコ内は前回見通し、単位は%

	2024年	2025年	2026年	長期
政策金利	4.6 (4.6)	3.9 (3.6)	3.1 (2.9)	2.6 (2.5)
実質GDP成長率	2.1 (1.4)	2.0 (1.8)	2.0 (1.9)	1.8 (1.8)
失業率	4.0 (4.1)	4.1 (4.1)	4.0 (4.1)	4.1 (4.1)
コアPCE上昇率	2.6 (2.4)	2.2 (2.2)	2.0 (2.0)	

(FOMCより西村証券作成)

米国 政策金利 & 10年国債金利
(2020/1~ 月末値)

